

1. 文章の表記

- ・ 『映像学』は横書きで印刷される。
- ・ 外国語の引用や文献に関する表記を除いて、読点（、）と句点（。）を使用する。
- ・ 数字は、原則として、半角の算用数字を用いる。ただし、固有名詞や慣用句など漢数字の使用が一般的な表現は除く。
- ・ 年代は原則として、西暦で表記し、必要に応じて元号を丸括弧で補う。
- ・ 論文内の節、項は、全角算用数字で番号をふり、全角で一字空けて、小見出しを添える。ただし、「序論」「結論」または「はじめに」「おわりに」等には番号はふらない。
例：「1 先行研究の検討」、「1. 1 作家研究として」

2. 引用

- ・ 引用は、カギ括弧でくくる。その際、引用文末尾の句点は除く。また、カギ括弧の中の括弧は小カギ括弧（入力できない場合は、一重カギ括弧）にする。二重カギ括弧は用いない。
- ・ 5行以上にわたる長い引用の際は、前後を各1行空け、左側を全角で2字相当インデントにする。引用部の初めと終わりのカギ括弧はつけない。
- ・ 引用文での補足は、[]を用いる。
- ・ 引用文での省略は、[…]を用いる。

3. 作品タイトルの表記

- ・ 映画作品については、原則として、二重カギ括弧を用いる。初出時に、必要に応じて丸括弧で、監督名、製作国における公開年（数字の後の「年」はあってもなくてもよい）等の情報を添える。製作年を用いる場合は「製作」と明記する。
例：『秋日和』（1960）
- ・ 外国映画のタイトルは、原則として、以下のように処理する。
 - （1）劇場公開された作品は、公開時の邦題を用いる。
例：『ピクニック』（1936年製作）
 - （2）劇場未公開で、映画祭等での上映、テレビ放送、ソフト販売、インターネット配信等がなされた品は、その際に付けられた邦題を用い、括弧ないし註で適宜情報を補足する。
例：『陪審員2番』（2024、劇場未公開）
 - （3）上記のいずれにも該当しない場合、タイトルを日本語に訳し、原題をイタリックで添えたうえで、括弧ないし註で適宜情報を補足する。
例：『骨女』（*Huesera*、2022年、日本未公開）
- ・ 美術作品、音楽作品等については、原則として、二重山括弧を用い、各分野の慣例に従って処理する。

4. 図版・表

- ・ 図版には「図1」、「図2」、表には「表1」、「表2」のように、通し番号を付したうえで、キャプショ

ンを添える。映画や写真などの図版には、作品タイトルを含むキャプションを付すこと。

- ・ 図表の掲載に際しては、『映像学』投稿規定「2. (4)」に則り、著作権を侵害しないよう適切に処理にすること。

5. 出典の表記

- ・ 出典の表記は、「註と文献表」方式とする。引用文献を巻末に文献表としてまとめた上で、引用や参照の都度、註にて出典を明記する。
- ・ 註は、Word 等の註機能を用い、後註（巻末註）として処理する。その際、註番号は、可能な限り文末の句読点の直前に付す。
- ・ 文献表は、著者のアルファベット順とする。
- ・ 以下に、文献表、註のそれぞれについて文献表記の例を示す。

a. 日本語文献の表記

《書籍》

例（文献表）：木下千花『溝口健二論——映画の美学と政治学』法政大学出版局、2016年。

例（註）：木下『溝口健二論』、242頁。

《翻訳書》

例（文献表）：ジョン・マーサー、マーティン・シングラー『メロドラマ映画を学ぶ——ジャンル・スタイル・感性』中村秀之・河野真理江訳、フィルムアート社、2013年。

例（註）：マーサー、シングラー『メロドラマ映画』、167頁。

《書籍所収論文》

例（文献表）：角井誠「アンドレ・バザン——「不純な映画」の時代の批評家」、堀潤之・木原圭翔編『映画論の冒険者たち』東京大学出版会、2021年、74–85頁。

例（註）：角井「アンドレ・バザン」、78頁。

《雑誌等掲載論文》

例（文献表）：斉藤綾子「映像のフェミニズムについて私の知っている2, 3の事柄」、『映像学』第103号、2020年、7–14頁。

例（註）：斉藤「映像のフェミニズム」、8頁。

《既出文献》

- ・ 直前の文献の場合は、「同書」、「同論文、○頁」などとする。
- ・ 間に他の文献を挟む場合は、上述の例と同様に文献情報を略記する。

b. 外国語文献の表記

- ・ 英語文献については、原則として、シカゴ・スタイルに従う。
- ・ 英語以外の外国語文献については、その言語での学術論文における慣習に依拠してよい。
- ・ 邦訳があるものは、丸括弧で日本語の書誌情報を添える。
- ・ 以下に、シカゴ・スタイルでの表記例を示す。詳細については、下記のサイトを参照すること。

https://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide/citation-guide-1.html

《書籍》

例（文献表）：Mulvey, Laura. *Death 24x a Second: Stillness and the Moving Image*. Reaktion Books, 2006.

例（註）：Mulvey, *Death 24x a Second*, 181–96.

《書籍所収論文》

例（文献表）：Sekula, Allan. “The Body and the Archive.” In *The Contest of Meaning: Critical Histories of Photography*, edited by Richard Bolton. MIT Press, 1989.

例（註）：Sekula, “The Body and the Archive,” 250.

《雑誌掲載論文》

例（文献表）：Gunning, Tom. “Moving Away from the Index: Cinema and the Impression of Reality.” *Differences* 18, no. 1 (2007): 29–52. (トム・ガニング「インデックスから離れて——映画と現実性の印象」川崎佳哉訳、『映像が動き出すとき——写真・映画・アニメーションのアルケオロジー』長谷正人編訳、みすず書房、2021年、145–179頁)

例（註）：Gunning, “Moving Away from the Index,” 29. (邦訳、145頁)

《既出文献》

- ・ 直前の場合は、「Ibid.」、「Ibid., 215.」などとする。
- ・ 間に他の文献を挟む場合は、上述の例と同様に文献情報を略記する。

c. インターネット上の情報

- ・ ウェブページ等については、URL と最後にアクセスの日付を明記する。

6. 英文・英文要旨

- ・ 英文要旨については、要旨のみで論文概要を理解できるよう、研究対象、問題設定、方法論、結論などを明確に述べる。
- ・ シカゴ・スタイルを用いて作成する。英語論文での出典表記は「註と文献表方式」(notes and bibliography system) とする。
- ・ イギリス式ではなく、アメリカ式の表記法を用いる。
- ・ 日本語のローマ字表記は、原則として、ヘボン式を採用する。
- ・ 英語以外の言語の映画作品については、原題ないし原題のローマ字表記を示し、括弧で英語での公開タイトルをイタリック体で添える。英語での公開タイトルがない場合は、英訳し、ローマン体（立体）で添える。

例：Shiroi yajū (*White Beast*, 1950)

例：Les quatre cents coups (*The 400 Blows*, Francois Truffaut, 1959)

例：Ithu Kathirvelan Kadhal (This Is Kathirvelan's Love, S. R. Prabhakaran, 2014)